

第6回米百俵賞受賞

(平成14年6月15日表彰)

**村上 一枝** (東京都武蔵野市)



マリ共和国で、識字教室や井戸作りなどを行い、農村の自立を支援した。

#### ■受賞時プロフィール

新潟市で歯科の開業医だった村上氏は、旅先でアフリカの過酷な状況を知ったことをきっかけに何かしたいと思い、平成元年、48歳で単身マリ共和国へ渡った。

最初は砂漠の村で植林活動に参加し、その後マリ人によって設立された NGO で保健スタッフとしてマディナ村で働いた。

そこで目の当たりにしたのは、清潔な水を作るために沸騰させる必要があることすら知らない人々だった。「医療だけでは限界がある。まず生きていくための基本的な活動ができるよう支援し、村人が自立できるようにしていきたい」と

考えた氏は、平成4年に自ら NGO 「マリ共和国保健医療を支援する会」(平成5年「カラ=西アフリカ農村自立協力会」に改称)を設立した。

氏が目指すのは村人が知識を得て、生きていくのに必要な活動を村人地震で行っていくこと。決してカネやモノを「無料であげる」方法をとらない。そのため、まず収入を得るための方法として、現地の女性に裁縫や刺繍の技術を教えた。次に、健康改善に必要な野菜や清潔な飲み水を得るため、菜園造成や手押しポンプの設置などに村民と一緒に取り組んだ。保健知識の普及のために識字教室も始めた。

こうした努力の甲斐あって女性は自分で作った作物や洋服を市場で売り、その収入で助産婦を雇ったり、穀物製粉機を購入したりできるようになった。識字教室の生徒の中から先生になる者も出てきた。

氏は支援活動の中でマリ人スタッフの働きを尊重し、補佐する立場を貫いている。「自立に向け、村人の中に指導的立場の人を育てることが大切」と語り、この信念を持って今まで関わってきた村は112か村、5万人にもものぼる。

### ■受賞後の活動

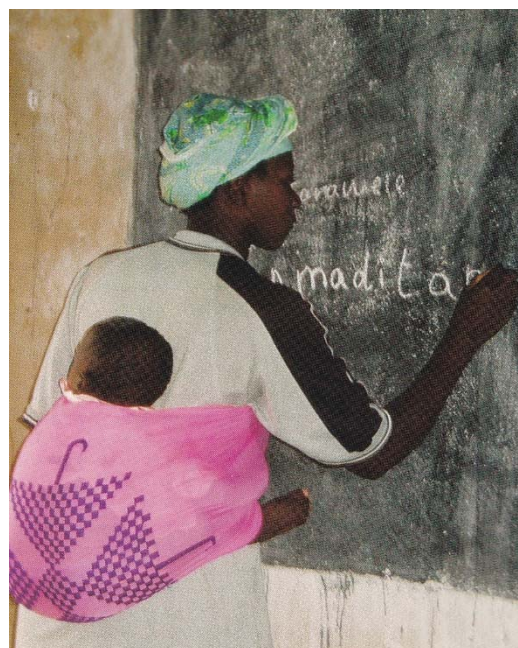
村上氏が代表を務めるカラ=西アフリカ農村自立協力会では、受賞後もマリにて村の人々の自立を目的に支援活動を展開している。

主な活動は、水の供給、教育の支援（学校建設、識字教育普及）、女性自立支援・女性の収入確保（女性適正技術支援、女性専用野菜園造成、女性小規模貸付事業）、保健衛生環境の改善と病気予防知識の普及、助産師育成、産院・診療所の開設など多岐にわたる。

このうち保健衛生環境の改善と病気予防知識の普及では、女性健康普及員を195人育成。研修で学んだことを各自の村で人々に伝える学習会を開催して知識の普及を行っている。

また、助産師育成では、産院開設村から女性1人を助産師に育成するため、バマコ市の病院へ研修生として送り、研修終了後、村に開設した産院に従事させている。産院・診療所は村の自主管理委員会により運営管理を継続しており、11か村に開設している。

こうした中、平成29年、マリでイスラム過激派の活動が活発になり、渡航が不可能になったこと、村の人々の自立が



▲モバ村での識字学習

進んできたことから、現地滞在をあきらめ、全て村やコミュン（群）庁へ引き継ぎを行った。

令和3年現在、日本部では会員会費と寄附による資金を活かし、現在も識字教室増設、野菜園開設、井戸掘削の事業を継続している。

氏は「人を育てることが意識を変え、それが自立につながり、貧困から抜ける道」と語る。識字教育や裁縫教育が種になり、自分たちの力で花を咲かせ、徐々にマリの人々の生活が改善されていくことが彼女の生きる喜びとなっている。

## ■主な受賞歴

- 平成7年 ソロプチミスト日本財団 女性ボランティア賞
- 平成8年 三基商事(株)第4回ミキ女性大賞
- 平成13年 読売新聞社第29回医療功労賞
- 平成15年 第6回大山健康財団賞
- 平成15年 第6回地球倫理推進賞
- 平成18年 (財)社会貢献支援団体 第36回日本財団賞
- 平成24年 第2回毎日地球未来賞
- 平成25年 日本住宅協会「国際居住年記念賞」
- 平成25年 日本ソロプチミスト日本財団社会貢献賞、千嘉代子賞
- 平成29年 第3回山上の光賞